

**特集**  
**赤い羽根共同募金の**  
**新たな取り組みに向けて**  
 市町共同募金委員会・市町社会福祉協議会トップセミナーより

今年度も十月より、全国一斉に赤い羽根共同募金運動がスタートしました。赤い羽根共同募金は、地域の様々な課題解決を目指して活動しているNPO法人や社会福祉協議会、ボランティア団体等、民間団体が行なう地域福祉活動を応援しています。

県内でお寄せいただいた募金は、主に県内の地域福祉活動のために役立てており、高齢者サロンの運営や点訳ボランティア、児童の登下校の見守り等安心して暮らせるまちづくりのための活動や地域から孤立をなくすための活動に使われています。



また、災害時においてはボランティアの方々を支援するための活動にも有効に使われています。

昭和22年に共同募金運動が始まって以来、これまでも時代や社会のニーズの変化に対応すべく、柔軟にその使い道を変化させてきました。

近年においては、人口減少と少子高齢化が急速に進行するなか、生活困窮や虐待、社会的孤立等の福祉課題・生活課題は多種多様化し、これらの課題解決に向けた活動を支援する共同募金運動に対する期待もますます高まってきています。

しかしながら、共同募金運動を取り巻く環境は全国的にも厳しい状況にあり、石川県では平成10年度をピークに募金額が年々減少し、26年度は10年度の8割程となっています。

このような状況の中、多種多様な地域課題にこれからも対応していくためには、従来の活動を基本としながらも、新たな活動にも取り組み、共同募金運動をより一層活性化していくことが求められています。

**市町共同募金委員会・市町社会福祉協議会**  
**トップセミナー**

生活困窮者自立支援法の施行や介護保険法の改正等、福祉施策も大きく変化してきています。

また、多種多様化する地域課題を的確に捉え、そのニーズに応じていくためには、共同募金が地域福祉の推進に担う役割を再認識し、地域に必要なとされる運動を展開していくことが必要となります。

そのため、9月11日に、市町共同募金委員会関係者と、地域福祉推進の核心的な組織である市町社会福祉協議会の関係者が一堂に会し、市町共同募金委員会・市町社会福祉協議会トップセミナーを開催しました。

**「地域福祉における共同募金の役割とは」**  
 中央共同募金会事務局長 島村系子氏

共同募金は、募金を集めることだけが目的ではなく、地域福祉活動を行う社会福祉協議会等と連携しながら、募金活動や助成を通じて、課題の解決までを一体的に展開することを目指すことが必要である。

また、福祉活動の必要性を地域の方々に理解・共感していただき、活動に必要な資金を地域で確保していくた

めには、福祉課題の変化に合わせた募金や助成方法へ見直すことに加え、新たな募金手法を取り入れる等、多様な寄付者から共感を得られる活動を展開していくことが必要である。



**実践報告**

**新しい募金手法による取り組み**

白山市社会福祉協議会  
 小西貞義会長 福永慎一常務理事

**「テーマ型募金」の取り組み**

過疎化・高齢化が進む白山ろく地域では、「雪」への対応が地域における課題の一つとなっている。

そこで、白山市社会福祉協議会では、25年度より白山市共同募金委員会と連携して、「雪すかし（除雪）」から始める孤立のないまちづくり」をテーマとして、この2年間新たな募金活動に取り組んできた。

白山ろくでは、冬になると毎日の除雪が大変な作業となっている。



住民の方に除雪方法を教わりながらボランティア活動を行いました。



地域のサロンに金城大学の学生が参加し交流を深めています。

そこで、一人暮らしの高齢者宅等に、大学生などの若者や白山ろく以外の地域の方々が除雪ボランティアとして訪問し、住民との交流をはかる事業を行ってきた。

その結果、住民の方々は冬の時期だけでなく、一年を通じて多くの方々に白山ろくに来てほしいと思っていることや普段から抱えている様々な悩みや不安などについても直接その声を聴くことができた。

また、除雪ボランティアに参加した金城大学の学生と白山ろくの地域の方々と新たな交流も始まっており、目指していた「孤立のないまちづくり」に向けたきつかけづくりとすることができた。

今年度からは、「雪」に限定せず、地域で抱えている様々な課題に取り組むことを目的に「白山ろくあつたか募金」として、白山ろくの活性化に取り組み複数の団体と協働し、市民の方々に白山ろくの地域課題や団体の活動内容を広く訴えかけながら募金活動を展開し、地域コミュニティの活性化や新たな支えあいを目指していきたいと考えている。

加賀市共同募金委員会

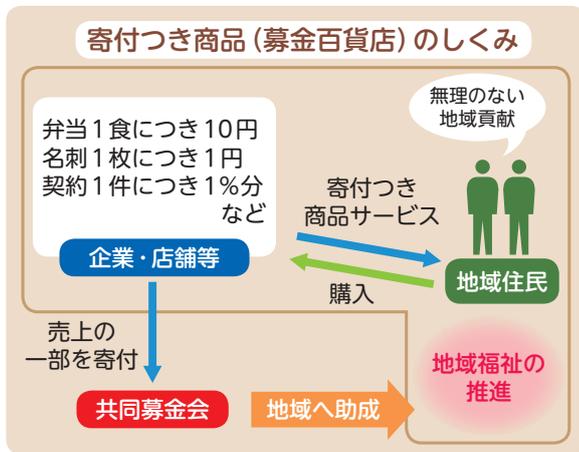
宮本峰幸会長 谷村司郎係長

「寄付つき商品(募金百貨店)」の検討

平成24年より加賀市共同募金委員会の役員等に、新たに地域の商工会や福祉関係者、寄付者の方々に参画いただき、これまで募金額の増額に向けた協議を重ねてきている。

また、募金検討委員会も立ち上げ、新たな募金手法の検討も積極的に進めている。

新たな募金手法の導入に向けては、これまで役員・職員・関係者合同の研修会を開く等、共通理解を図りながら、一丸となって共同募金の推進に取り組んでいる。



これらの検討の中から、加賀市内の企業と住民の方々に無理なく参加いただける募金手法として「寄付つき商品(募金百貨店)」を取り入れる準備を進めている。

この募金手法は、企業の寄付つき商品やサービスを住民が購入・利用することにより、その売り上げの一部が、加賀市共同募金委員会へ募金されるため、企業も住民も通常の生活の中で、共同募金を通じた地域福祉の推進に気軽に参加できる仕組みとなっている。

集められた募金は、児童への学習を支援する事業やスポーツ交流・職場体験の活動等、未来ある子供への支援として活用していきたいと考えており、実施に向けて今後さらに検討を進めていきたい。

児童生徒の皆さんへの啓発活動の一環として、毎年ポスターコンクールを開催しています。今年度は284点のこころ温まる作品のご応募をいただきました。たくさんのご応募ありがとうございました。

石川県知事賞		石川県教育委員会賞		石川県共同募金会会長賞	
押水第一小学校6年 杉野 明音さん	中能登中学校2年 山辺葉衣子さん	羽咋工業高校2年 辻 淳美さん	羽咋小学校6年 久保田汐里さん	志賀中学校3年 岩上 晴香さん	羽咋工業高校3年 佐藤 未歌さん
				羽咋小学校5年 北出 美優さん	輪島中学校2年 宮本乃梨子さん
					羽咋工業高校2年 池田 千華さん

その他、優秀賞5点、佳作5点、入選14点に選ばれた作品は本会ホームページに掲載しています。

このポスターコンクールをきっかけとして、児童生徒の皆さんの“思いやり”や“たすけあい”の気持ちが、より大きく広がっていくことを願っています。